

目指すべき学校像	国際社会に生きる人材育成を最高の目標とし、人格の完成、豊かな情操を育み、探求心旺盛な自主的・自律的な精神に満ちた心身共に健全な人間育成に期する。
重点目標	A 学校の教育理念や歴史を理解し、学校に誇りを持つ。 B 自らの進路を主体的に考え、学習に生かすことができる。 C 生徒にとってかけがえのない学校生活を充実させる。 D 教育環境に対し、常に最高の教育環境を維持する。 E 国際社会を見据え、韓国人としての矜持や国語（韓国語）を学ぶ礎を築く。

達成度	A	ほぼ達成 (80%以上)
	B	概ね達成 (60%以上)
	C	変化が見られる (40%以上)
	D	不十分 (40%未満)

達成度は生徒アンケートで、「よく当てはまる」「やや当てはまる」の数値(%)の合計で表す。

年度目標		学校評価				年度評価		学校関係者評価
重点目標	設問番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
A	1.2.3.4	創立70周年を迎える年度に当たり、改めて本校の創立及び運営の継続がいかに意義のあることであるかを理解することにより、本校で学ぶことへの誇りを持たせることができるようの努力を重ねる必要がある。	生徒自身が学校設立の背景を理解し、誇りを感じることができている取り組みの実施。	・創立70周年に伴う記念行事においては卒業生による講演や、校長・理事長による講話を通し実施 ・創立当時の状況や苦難を乗り越えた経緯を生徒たちが理解する内容を検討。また、記念誌の作成においても生徒たちが記事の作成に関与する機会を作る。 ・4・24記念講話、8・15記念講話等の学校創立の歴史的背景になる記念講話の講話の内容検討。	・「学校に誇りを感じる」生徒が2/3を超える。 ・「学校設立」背景を理解する生徒が2/3を超える。 ・本校が目指す生徒像を理解する生徒が2/3を超える。	・設問の1~4の肯定的な回答の割合は、全て55%は超えているが、60%に達したのは設問1のみであった。具体的方策にのべた内容は実施されたが、単発的な行事となってしまった懸念がある。	B~C	・記念講話に関してはその内容を事前にPRするポスター等を掲示することや、総合の時間などを利用して生徒が調べ学習等を行うことにより意識を喚起した上で実施すること。 ・学校設立当時を記録した「幻のフィルム」を活用するとともに、学校設定科目である在日史の授業との連携を図ることにより、生徒達の関心・理解をより深いものにする。
B	5.6.7	ここ数年、韓国、日本を含めて進路状況の実績は向上しており、生徒達の進学意欲は学年が進むにつれて高まる傾向がある。学校は例年、進路説明会、大学進学説明会、職業別ガイダンス等を実施して生徒の進路選択の支援を行って来た。しかし、昨年度のアンケートから進路選択に安心感を持つ生徒は6割程度に留まっていた。特に選択科目に対しての満足感が低い結果となっていた。	進路の選択及び進路希望実現にむけた効果的な取組の実施。	・本校主催の進路説明会の早期実施及び内容の充実 ・正確で的確な進路情報の伝達の為の、三者面談の活用 ・大学説明会、進学フェアへの生徒の参加を奨励 ・職業別ガイダンスの充実による進路への意識付け ・模擬テストの有効活用 ・補習授業の充実と強化のための予備校との連携	・進路に関する設問に対する肯定的な回答が2/3を超える。	・肯定的な回答の割合は、設問5~7、10の平均で58.7%であった。昨年度より向上しているものの十分なものは少ない。 ・学校で実施された説明会への生徒・保護者の説明会参加率は高くなった。 ・大学主催の説明会や、進学フェアにはほぼ全員の生徒が参加するようになった。	B~C	・生徒の進路に対する意識付けを早期に行うためのガイダンスや説明会の実施。 ・大学、専門学校等との連携による進路関係行事の実施。 ・卒業生による受験体験談や効果的な受験対策等の講演の実施。 ・放課後、進路指導室への生徒の出入りを促進させ、進路支援ツールを活用させる。
C	8.9.10.11.13.14	昨年アンケートでは、授業の理解しやすさや取組の態度に関する肯定的な回答の割合は57%に留まっており、学習活動への満足度をより向上させる必要がある。学校行事や教員の生徒指導の有り方に対しては肯定的な回答の割合が60%を超えている。思春期の心のケアに対する肯定的な回答の割合は60%を下回っており、不十分さが現れた。	確かな学力の育成と授業改善	・授業改善にかかわる情報の収集と共有 ・IT機器の授業への活用 ・生徒のニーズに応える教育課程の改善 ・少人数制を生かした授業展開の強化 ・総合クラスの補習時授業の充実 ・自律学習室利用の奨励と充実	・生徒の授業満足度(設問8~10)80%以上を目指す。	・設問8~10の肯定的な回答の割合は、59.3%となり、特に「授業は工夫されていてわかりやすい。」に対しては50%と低い数値となった。「授業に熱心に取り組んでいる。」に対しては64%となっており、教員の意識との乖離が見られる結果となった。 ・教育課程の改善、少人数授業の展開に関しては実施できている。	B~C	・定期的な研究授業、教員相互の教授方法の検討と意見交換会を実施する。 ・アクティブラーニングの導入やIT機器の積極的な活用により生徒が主体的に学習に取り組める授業を研究する。 ・早朝小テストの導入により授業に集中できる雰囲気作りを行なう。 ・科目に応じた習熟度別クラス編成を導入し生徒の理解の深度を深める。
			安心して通える学校生活づくりを目指す	・学校や教員に対する信頼を高める取組の実施。 ・カウンセラーの助力を強化する。 ・登校指導時の生徒の見守りにより、早期に変化を見つける取組の実施。	・設問14の肯定的な回答の割合80%を目指す。	・設問14の肯定的な回答は55%に留まった。 ・カウンセラーの助力はより強化され心のケアが必要な生徒へのフォローはかなり効果を挙げていることを実感できる。		・教員の生徒指導に関して意識の持ち方を改革し、生徒が心を開ける環境作りを実施する。 ・保護者との連絡をより密にし家庭からの情報を元により密度の高い生徒指導を実施する。 ・生徒の心の変化を見守る為、担任を中心とする懇談の機会を増やす。
			学校行事を通じた教育の充実	・従来行事の強化(文芸祭2日制の導入) ・姉妹校との交流(交換留学等)の強化	・設問11の肯定的な回答の割合80%を目指す。	・設問11の肯定的な回答の割合は56%に留まった。 ・文化祭を2日制にしたことは生徒や保護者の好評を得た。		・行事の実施に当たり、生徒が自主的に立案、計画、準備、実施に当たれる状況をつくり、やりがいを感じることが出来るものとする。
D	12.13	校舎の再建築とリニューアルが完成し、普通教室への電子黒板の設置も完了した。そのような中で生徒たちの美化意識の高まりも見られる。	教育施設の充実と環境及び美化意識の向上により、充実した学校づくりを目指す	・施設の充実と有効活用 ・校内美化状況の確認と点検方法の見直し ・清掃活動奨励の強化 ・清掃用具の点検と充実	・設問12の肯定的な回答の割合80%を目指す。	・設問12の肯定的な回答の割合は52%に留まった。 ・清掃活動への取組は生徒と教員が一体となって取組んでいる。	C	・施設や設備のさらなる充実はもちろんであるが、これらを有効活用した授業や行事を展開する。 ・清掃分担箇所の徹底と清掃方法のマニュアル化を推進する。 ・全員清掃日を強化して美化への連帯感を強化する
E	15.16.17	本校は民族学校として、その教育の柱に言語教育である韓国語教育を掲げている。英語を含め韓国語の学習は国際社会に通じる道であることは生徒達も認識している。生徒のニーズに答えるべく高い水準の韓国語教育を実践してきている。言語の習得を通じ生徒たちが自信を深めることは、学校教育全体への良い影響をもたらすものと考えられる。	韓国語によるコミュニケーション力の向上	・授業を進行を韓国語で行う割合を出来るだけ高めていく。 ・会話の授業を教育課程に導入する。 ・韓国語の弁論大会、スピーチ大会へのエントリーを奨励する。 ・協定校との交換留学等への参加を奨励する。 ・日常の学校生活において、韓国語を出来るだけ使うことを意識付ける。	・設問15~17の肯定的な回答の割合80%を目指す。	・設問15~17の肯定的な回答の割合は64.3%であった。 ・韓国語に関心を持つ生徒が多くなり、普段でも韓国語で話をしようとする生徒を見かける機会が増えた。	B	・コミュニケーション力向上に必修の単語力向上を期し、教科担当と担任団の連携の上で校内韓国語単語試験の合格率を向上させる。 ・韓国語に関心を持つ生徒が多くなり、普段でも韓国語で話をしようとする生徒を見かける機会が増えた。 ・韓国の協定校との交換留学等への参加を更にうながし、実際に韓国語を使う機会を増やす。
			韓国語習得の指標である韓国語能力試験の合格率向上	・資格を認定される試験でもあることを認識させ、年2回の検定試験への受験率を高める。 ・能力試験対策の補習授業への生徒の参加率を高める。	・能力試験の初級・中級・上級の合格率70%を目指す。 ・4月の試験の受験料の補助等の対策を考え、受験者30%を目指す。	・韓国語能力試験の上位の級に上がるにつれ合格者の絶対数が増加している。初級の合格者数(17名)はそれ程多くは無かったが、合格率は60%程度であった。		・韓国語能力試験は10月が全員受験で、4月は任意である。受験料の問題はあるが、受験の機会を増やし、意識の向上に繋げたい。 ・級別(習熟度別)の授業の実施によりより学習の効率を上げ、受験者数及び合格率の向上を目指す。

学校関係者評価	実施日 2015年 3月 26日
学校関係者の意見・評価等	<p>・学校の教育理念や歴史を理解し、学校に誇りを持つという評価が生徒・教員共に低い。授業や記念講和等学ぶ機会があっても、教員の中で理念を理解しているか、また子ども達に伝えることができているかが憂慮される。身近な在日一世の歴史や兵役の義務、在日同胞の權益問題等は教員・保護者も学び日常生活の中で子どもたちにしっかり教えていく事で誇りを持って社会に出て行ける力をつけていける事を期待する。</p> <p>・進路に対する相談・環境は高い評価になっており先生方に対する信頼が大きいと思われる。現在は生徒のほぼ半数が進学する状況であるので、早い時点で具体的なアドバイスが必要ではないだろうか。長期的な展望を個人懇談などで具体的な数値を取り入れながら、将来を考える機会を与えると共に生徒の個性・伸びしろも見据えの指導を望みたい。また、韓国の大学への進学に対しては多々情報提供されているが、入学後の授業内容・学校生活・卒業後の就職などもメリット・リスク面も含めてより一層幅広い進路指導を期待する。</p> <p>・学週面においては授業への質問はしやすいと評価されるが、工夫されていて分かり易いが低い評価になっている。生徒がより積極的に学習に取り組めるように常に新しい視点が必要ではないかと思われる。朝の15分テストや10分間読書など習慣を作ってはどうか。</p> <p>・学校施設・クラブ活動・行事の充実感に関する評価は低めである。生徒の自主性、自分たちで学校生活を創っていく事を実感しているだろうか。今年度は文芸祭が2日になり生徒は自分たちが創る喜びをより多く感じた様子が見られた。生徒たちがどこに充実感を持つか今一度再検討して頂きたい。年間行事や制約もあり、簡単なことではないと思うが体育祭等も含めてさらなる自主活動の場となるような取り組みに期待する。また、悩みや相談をしやすい環境に関して、教員の評価に比べて生徒の評価が低い。高校生と言えども友だちだけでなく、担任やクラブ顧問との関係性は重要であると思われる。学校生活について相談できる場を求めていると思われる。クラブ顧問などを中心とした先生方の子どもに対する積極的な声かけを望みたい。</p> <p>・民族教科・国語の実力・韓国との交流の場に対する評価が高いのは、建国内子どもを通わせる保護者にとって大きな喜びである。せっかく建国内に入学したので、国語・英語も頑張してほしい。</p>